

環境安全ニュース

大阪大学環境安全研究管理センター

OCCS の現状と棚卸し方法

OCCS（大阪大学薬品管理支援システム）は、1月現在で、9万件の薬品が登録され、運用されている。今回、稼動状況と部局別の登録状況、および OCCS による棚卸し方法について解説する。



OCCS 現状（稼動状況と部局別の登録状況）

平成 16 年 9 月から 17 年 1 月まで、2 件のトラブルがあった。S2 サーバにハードディスクのトラブルがあり、9 月 16 日に停止し交換を行った。12 月 6 日に S1 サーバが原因不明のトラブルでアクセスできない状態に陥ったが、再起動で解決している。これら以外の停止は 3 回で、11 月 7 日の環境安全研究管理センター停電による停止、11 月 24 日の OS アップデートに伴う再起動、12 月 27 - 28 日の保守点検による停止である。

9 月の時点からの 4 ヶ月の間に、全学で約 2 万本の薬品が新たに登録され、総数 9 万本を超えた。（表 1）毒劇物に関しては、毒物約 2 千本、劇物約 1 万 7 千 7 百本が登録され、重量管理されてい

る。薬品総本数に対する毒劇物の割合は、徐々に低下してきている。これは、当初毒劇物が優先登録対象であったが、徐々に一般試薬へと移ってきたことを示している。各部局別の薬品登録状況は表 2 に示した。

現在、サーバには、関東化学、和光純薬工業、ナカライテスク、東京化成工業、シグマ、アルドリッチ、キシダ化学、コスモバイオ、第一化学薬品、フナコシの 10 社の薬品マスタが登録されている。さらに使いやすいシステムを目指して、昨年 9 月の薬品管理 WG で、渡辺化学工業、メルク、アプライドバイオシステム、高純度化学研究所の 4 社の薬品データを OCCS に投入することが決まり、現在準備中である。

表 1. 薬品総本数に占める毒劇物の割合の変化

日付	毒 物		劇 物		薬品総本数
	本数	毒物の割合%	本数	劇物の割合%	
2004 年 4 月 24 日	1,021	3.2	7,926	24.6	32,230
9 月 14 日	1,839	2.6	14,832	21.1	70,232
2005 年 1 月 5 日	2,034	2.3	17,773	19.7	90,008

表2. 部局別登録状況

H17.1.5

サーバ	部局名	グループ ID	毒物本数	劇物本数	総試薬本数
S1	工学研究科	F	465	4,719	31,738
	情報科学研究科	G	0	0	0
	微生物病研究所	J	57	541	2,161
	産業科学研究科	K	130	1,227	7,454
	蛋白質研究所	L	91	716	2,326
	接合科学研究科	M	10	80	303
	レーザーエネルギー学研究センター	NA	19	184	1,167
	超高压電子顕微鏡センター	NB	2	13	96
	ラジオアイソトープ総合センター(吹田)	NC	0	14	21
	超電導フォトリソ研究センター	ND	0	12	30
	環境安全研究管理センター	NE	16	117	889
	生物工学国際交流センター	NF	1	100	370
	核物理研究センター	NK	1	8	10
	S1 サーバ合計			792	7,731
S2	人間科学研究科	A	9	68	450
	医学系研究科	B	201	2,243	4,952
	医学系研究科保健学専攻	BY	4	51	162
	医学部附属病院	C	1	157	215
	歯学研究科(含附属病院)	D	53	601	2,613
	薬学研究科	E	413	2,057	10,774
	生命機能研究科	H	43	513	1,664
	先端科学イノベーションセンター	NG,NH,NJ	5	67	468
	S2 サーバ合計			729	5,757
T	工作センター	UA	11	49	362
	ラジオアイソトープ総合センター(豊中)	UB	0	0	0
	極限科学研究センター	UC	0	0	0
	太陽エネルギー化学研究センター	UD	17	282	1,133
	総合学術博物館	UE	0	0	0
	健康体育部	V	0	0	0
	生命機能研究科	W	グループ ID 未登録		
	情報科学研究科	X	グループ ID 未登録		
	基礎工学研究科	Y	118	1,449	11,922
	理学研究科	Z	367	2,505	8,728
	T サーバ合計			513	4,285
3 サーバ総計			2,034	17,773	90,008

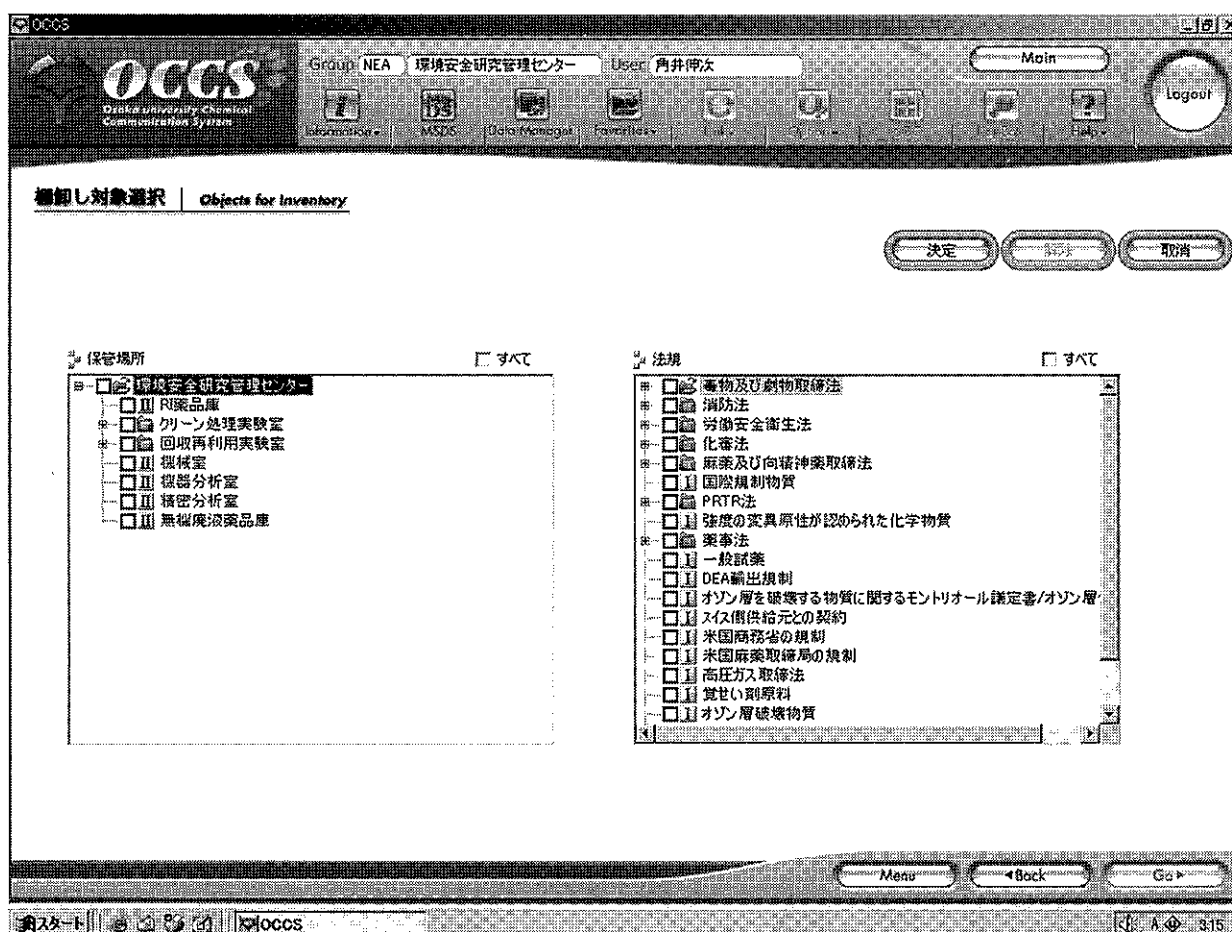
OCES による棚卸し方法

OCES には「棚卸し」機能があり、非常に簡便に在庫のチェックを行うことができる。3 月から 4 月にかけて試薬整理を行う研究室が多いため、“棚卸し”機能について説明する。

1. 棚卸し対象選択 (主クライアントのみで設定可能、スーパーバイザーでのログインは不可)

教官が、主クライアントで設定する。主クライアントにログインし、「メンテナンスボタン」を押す。メンテナンスメニューの「棚卸し」から「棚卸し対象」を選択する。(下図参照)

「保管場所」と「法規」で対象を選択する必要がある。グループ内のすべての薬品を棚卸しする場合には、「すべて」の box 2 ケ所チェックする。



2. 棚卸し入力 (主クライアントもしくは E-web を使用)

E-web からサーバにアクセスし、「棚卸し入力」を選択し、バーコードをリーダーで読み取る (もしくは入力する)。使用状態を確認し、棚卸し計量値 (毒劇物等の重量管理物質の場合のみ) を入力し、Enter ボタンを押す。(次ページ図参照) これを繰り返す。

Group: NEA 環境安全研究管理センター User: 学生1 Logout

メイン処理 入庫登録 出庫登録 棚卸し入力 廃棄薬品登録 バーコード印刷

棚卸し入力 | Inventory data entry

ENTER Clear

棚卸し入力

OCGS バーコードNo. NEA0000344

使用状態 未開封 開封

棚卸し計量値 g 最新計量値 102.6g

商品名 硝酸亜鉛六水和物 99.9% (25g)

メーカー 和光純薬工業(株) 使用期限 2014/04/09

規格 - LOT No. ACH2900

CAS No. 10196-18-6

コメントI PRTR: 第一種指定化学物質 No.1 / 99.9%
以上(2nとして22%純度は不純物金属成分
の定量及び差減法により算出)

コメントII

3. 棚卸しレポート (主クライアントもしくはデータマネージャーを使用)

「棚卸しレポート」「棚卸不一致リスト」「棚卸未処理リスト」のいずれかを選択し、保管場所と組み合わせ出力することができる。

4. 棚卸し完了 (主クライアントのみで可能)

棚卸し完了を選択すると、未棚卸し薬品のリストが表示される。リストされた薬品は、下図中の box をチェックすることにより、一括で空ビン処理することができる。

棚卸し完了 (未棚卸し薬品の空び設定)

棚卸し完了 | Inventory Completion

未棚卸しリスト すべて

OCGSバーコード	薬品名	メーカー	規格	内容量	最新計量値
<input type="checkbox"/> NEA00001034	25%アンモニア水 (500ml)	和光純薬工業(株)	和光一級	500ml	(未開封)
<input type="checkbox"/> NEA00000963	25%アンモニア水 (500ml)	和光純薬工業(株)	有害金属測定用	500ml	465g
<input type="checkbox"/> NEA00000961	クロロホルム	キシダ化学	特級	3L	(未開封)
<input type="checkbox"/> NEA00001225	塩酸	関東化学株式会社	有害金属測定用	500ml	(未開封)
<input type="checkbox"/> NEA00000960	メタモール (3L)	和光純薬工業(株)	試薬特級	3L	(未開封)
<input type="checkbox"/> NEA00000972	硝酸1.38 (60%)	キシダ化学	精密分析用	500ml	565g

注意：棚卸し中は、試薬の返却は可能ですが、持ち出しはできません。

問合せ：環境安全研究管理センター 角井まで

(Tel : 8977、e-mail : tsunoi@epc.osaka-u.ac.jp)

最近の排水水質分析結果について

今回は平成 16 年 8 月から 11 月の排水検査結果より、主な項目について示した。

吹田地区では、最終排水口において基準値を超えた項目はなかった。総水銀が 10 月に定量下限値程度の濃度で検出された (図 1)。それ以外の項目は、良好であった。

10 月に行われた採水地点別の分析では、No.5 地点で基準値を超える生物化学的酸素要求量 (BOD) が検出された (図 4)。これは、No.5 の排水柵が乾固していたため、近辺の生活排水が流入している排水柵から採水したためである。それ以外では、No.2 地点でジクロロメタンが、No.4 地点で総水銀、浮遊物質量、よう素消費量が基準値以下の濃度で検出された (図 4)。

豊中地区では、排水は大学教育実践センター側と理学・基礎工学研究科側の 2 つの系統に分かれて公共下水道に排出される。9 月に理学・基礎工学研究科側でジクロロメタンが定量下限値程度の濃度で検出された。それ以外の項目は良好で、頻繁に基準値前後の値が検出される n-ヘキサン抽出物質も 5 mg/l 以下であった (図 3)。

毎年、年末から年度末の研究活動が活発化する時期に、高濃度の有害化学物質が検出されるため、今後も、環境中に有害物質を排出しないよう皆様の適切な処置・処理をお願いします。

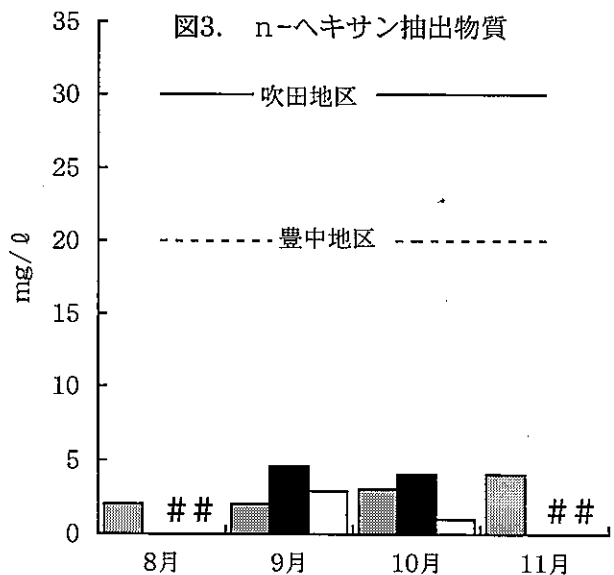
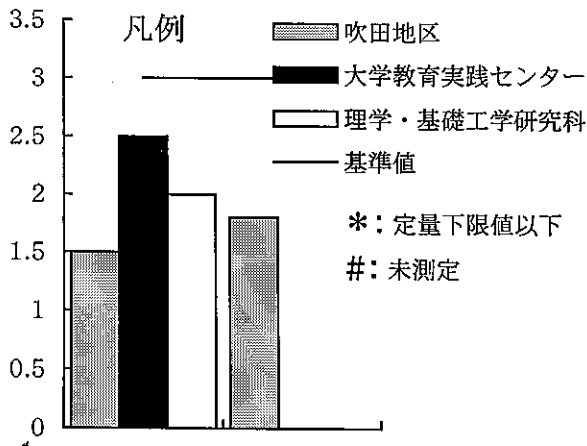
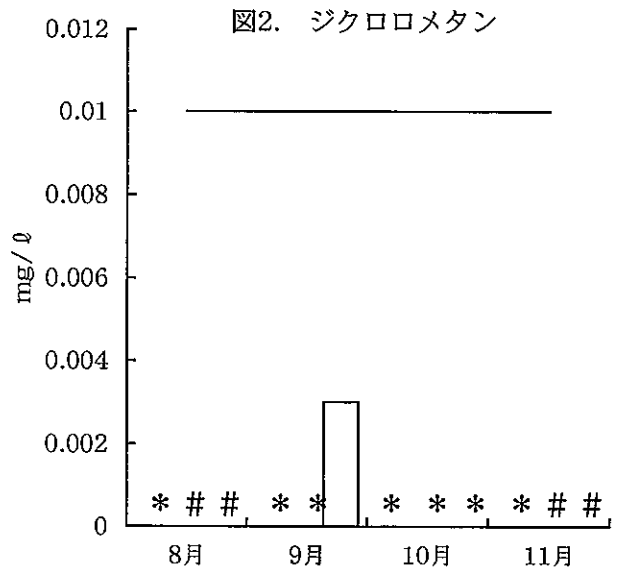
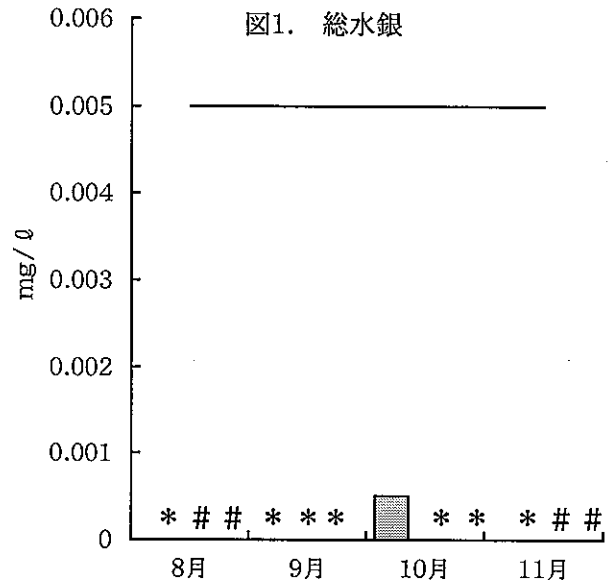


図4. 吹田地区排水系統と要注意項目 (平成16年10月12, 13日自主検査)

